

労働組合の役割と日常の活動

全日本自治団体労働組合
小郡市職員労働組合

高田 邦治

私の働くまち

福岡県

福岡市

北九州市

小郡市

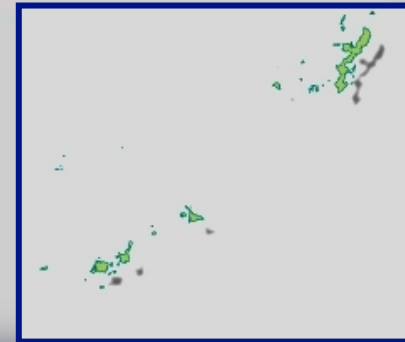
久留米市

福岡県小郡市

人口 59,088

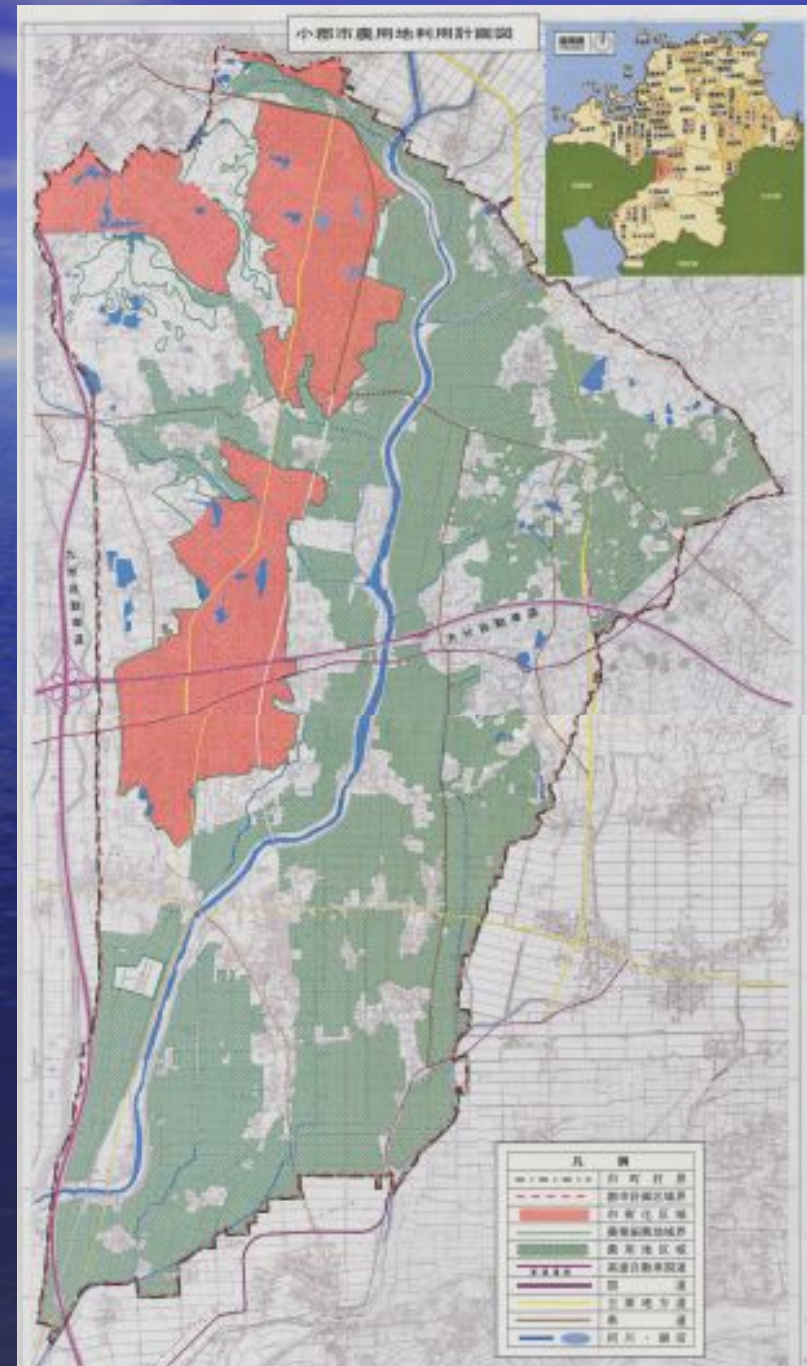
世帯数 21,638世帯

(2010.6.1現在)



市内には60の
行政区(=自治会)

市の様々な業務は、
区長(自治会長)を
通じ、市民への浸透
や取りまとめを行う
ことが多い。



小郡市職員労働組合の構成

基本組織(親組合)

組合員総数 295人

ユース部

(32歳以下の組合員)

76人

女性部

(女性の組合員)

107人

現業評議会

(給食調理員、学校用務員
など、労務職の組合員)

35人

社会福祉評議会

(社会福祉協議会の組合員)

4人

臨時・非常勤評議会

(臨時職員・嘱託職員の組合員)

※2010年9月設立予定

組織対策部

賃金調査部

厚生部

教育宣伝部

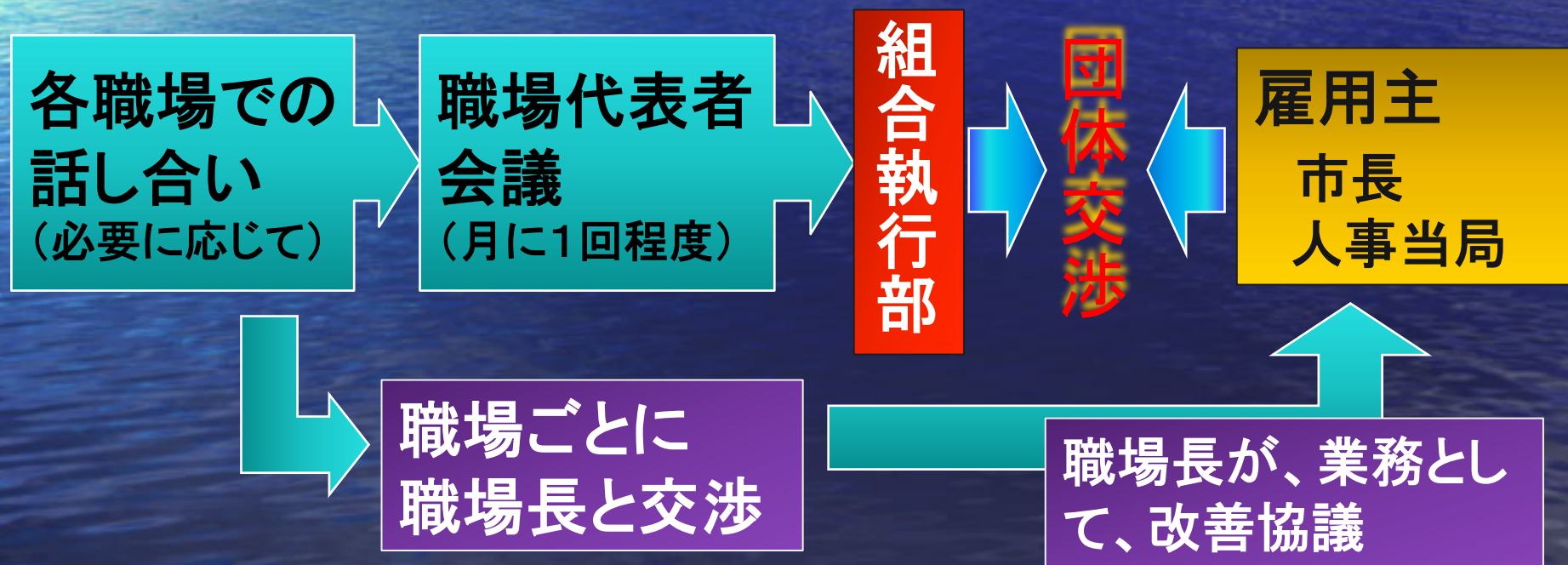
自治研対策部

各部ごとに、専門委員会、事務局会議などが置かれている。

小郡市職員労働組合の日常的な取り組み

I 雇用・賃金・労働条件・権利を守る取り組み

- ・賃金を改善するため
- ・職場に、仕事に見合う数の職員を配置させるため
- ・生活実態に合わせた休暇制度を充実させるため
- ・けがや病気の多発する職場を改善するため



小郡市職員労働組合の日常的な取り組み

Ⅱ 役所の仕事のあり方を分析し・改善する取り組み

- ・幼稚園、保育所、学校給食を、“公”で運営することの必要性を検証し、分析。→交渉や、市民へのアピール

- ・市の財政を分析し、事業の優先順位や予算の絞り込みについて、人事当局と協議

Ⅲ 社会的な問題を解決する取り組み

- ・労働者の声を政治の場に届ける、選挙活動
(国会議員、県知事、県議会議員、市長、市議会議員)
- ・差別をなくすために、毎月街頭ビラを配布
- ・戦争に反対し、平和を守るために、平和学習会を開催、集会への参加 など

小郡市職員労働組合の日常的な取り組み

Ⅳ 自主的な福祉事業や、福利厚生への取り組み

- ・自治労の共済(保険)への加入の呼びかけ
- ・「ろうきん」の運営への関与
- ・組合員、家族とのレクリエーション交流事業

Ⅴ 組織としての「組合」の運営

- ・組合費を徴収→予算を編成→会計の執行
- ・書記の雇用
- ・組合の財政を自己分析し、改善

組織を強くし、
運動を拡大し、
組合・組合員・職場・運動を
守るために、
何を認識し、動かなくては
ならないか



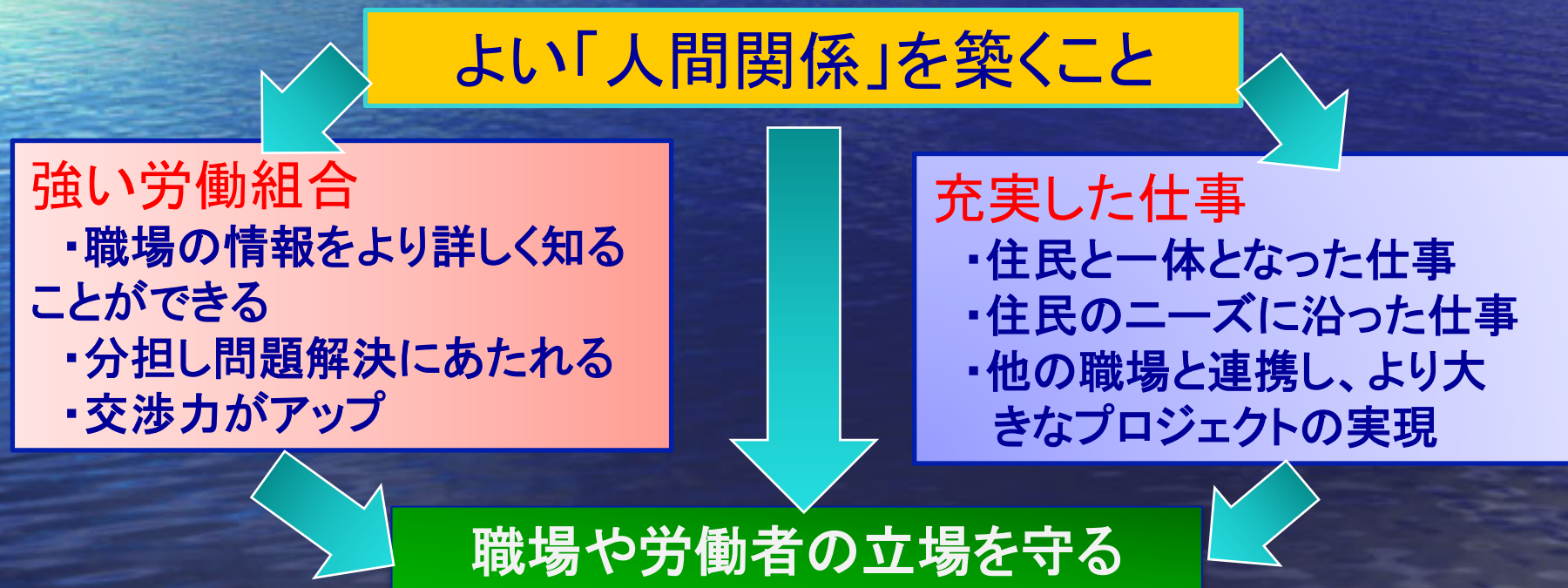
『労働組合運動は、「人間関係」という極めてぜい弱な関係の上に成り立つもの』ということの認識

- 労働組合は働く者が結集する組織。その究極目標は「人間らしく生きる」こと。
- ならば、労働組合の構成員（＝組合員。役員も含む）が「人間的」なつながりをもたなければ、活動意義に合致しない。
- 構成員の「人間的」なつながり ＝ 「人間関係」
- 役員の交代、仕事の変化などによって、また組合員の入れ替わりや職場の関係、日々起こる事件などで、労働組合における「人間関係」は常に変化する。

人間関係のない社会はありえない

- ★組合員と家族
- ★組合員と役員
- ★組合員と組合員
- ★組合員(職員)と住民
- ★組合員(職員)と業者(仕事相手)
- ★組合員(職員)と上司・管理職
- ★組合と使用者(雇用主)

職場～家庭～地域～組合と、人間関係はリンクする



(例1) 「住民代表＝区長」との人間関係

★小郡市における空き缶の分別回収

回収の日に、職員でなく地元の区長(自治会長)・自治会役員が分別指導する。



住民による「自治」
の体制づくりを
目指す

「代行業」から「仕掛け
人」への脱却の議論

「自分たちでできる
ことを自分たちで」
の喚起

全60行政区への説明会
(述べ1年間)

自分たちの手で、
空き缶の分別をする

「自分の地域の役員が
やっているから」という意
識→行動の徹底

住民のリサイクル・
環境への意識の向上

住民と住民

住民と区長

区長と区長

区長と職員

職員と職員

の
信頼関係
による

住民→区長→市

区長との信頼関係

区長会と組合執行部の
意見交換（毎年2月）

住民組織の代表者に
職員の実態を知ってもらう

- ・職員の立場への理解
- ・労働組合、運動への理解
- ・運動への協力

・頑張る職場、職員を
地域・市民全体で支援
しようとする体質へ

区長から「担当課の職員を
増やして欲しい」との要望

(例2) 保護者との連携

★「宝城幼稚園休園」に伴う
地域の教育を考える取り組み

市内には公立の
幼稚園が3園



財政の厳しさと、園児の
減少を理由に、「1999年
に1園を休園」との方針



幼稚園の教職員
「職場が奪われる！」



組合がとった対策は...



「地域の教育を考
える会」の発足



保護者と組合とが、一
緒になって存続の取り
組み



「うちの子も、あの幼稚
園に通わせなかった」
「近くに幼稚園がない」



実は、地域の子どもの
保護者も困っていた。

存続の署名活動



存続を求める集会の開催



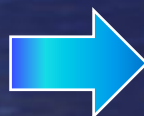
議会・市当局への要請、
議会の傍聴



結果的に存続は
ならなかったが...



休園の施設を開放し、
地域の子どもたち向け
のイベントを開催



地元の区長・保
護者の、組合活
動への理解



(例3)

行政と市内のさまざまな事業所との連携

①「認知症サポーター」

徘徊老人搜索のネットワークづくり

自治体どうしの連携

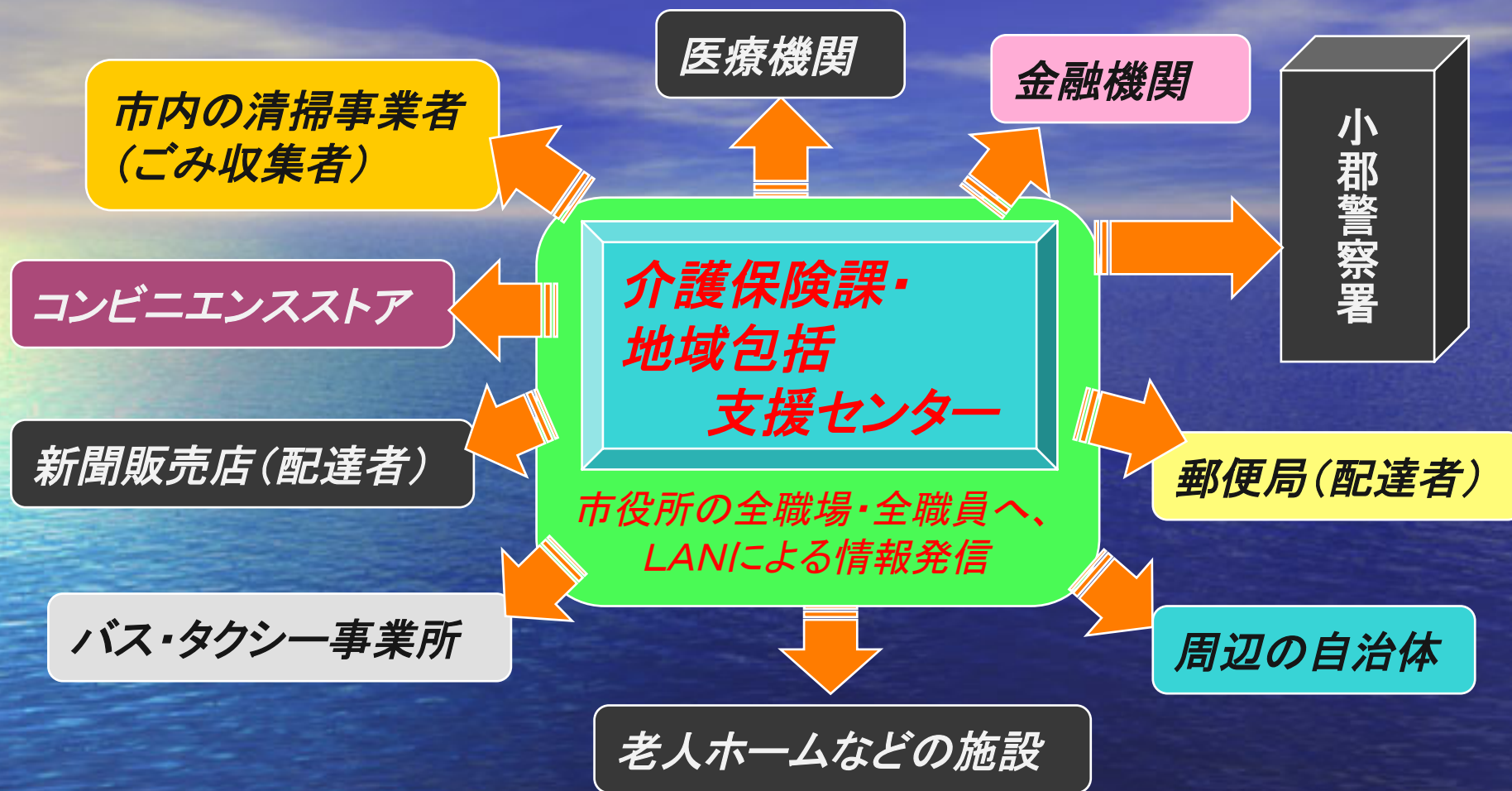
②市町村を超えた、認知症サポートの連携

正規雇用職員と嘱託職員との連携

③嘱託職員(非正規雇用職員)の

組合加入に向けた取り組み

①「認知症サポーター」徘徊老人搜索のネットワークづくり



システムづくりだけでなく、認知症に対する市民の意識を高めるための、啓発活動(説明会・講座)も各地域で行っている。

②市町村を超えた、認知症サポートの連携

徘徊者は、ひと晩で、
何10kmも歩く →
よその市町村へ



自治体間の連携、共通の
認識が、命を守る



市町村合同の会議・実地訓練



2008.11

大牟田市で行われた
徘徊搜索模擬訓練に
小郡からも参加

③嘱託職員(非正規雇用職員)の組合加入に向けた

取り組み

小郡市介護保険課

課長(正規雇用)

介護保険係
6人(正規雇用)
※ 組合員

高齢者サービス係
2人(正規雇用)
※ 組合員

地域包括支援センター

センター長(嘱託職員)

スタッフ 12人
保健士(正規雇用) ※組合員
ケアマネジャー(嘱託職員) ※組合員ではない
社会福祉士(嘱託職員) ※組合員ではない

地域包括支援センターの嘱託職員は、ケアマネジャー、社会福祉士など、資格を活かす**専門職**。

しかし、嘱託職員は**雇用年限**があり(最長6年)、正規雇用職員に比べ、**賃金は低く、労働条件も悪い**。

正規雇用職員以外の臨時・嘱託職員は、**組合に加入できない**。



臨時職員・嘱託職員も**組合に加入**してもらい、組合の「**臨時・嘱託協議会**」として、雇用年限の撤廃や賃金・労働条件の向上に取り組む。

地域包括支援センターの嘱託職員



★仕事での連携
★プライベートでの家族ぐるみの交流



地域包括支援センター担当の職員（組合役員）

小郡市職労（組合）

（例4） 組合員と家族との交流

★「家族レクリエーション」

- ・家族ぐるみでリフレッシュ。
- ・家族に、組合員の、日ごろの人間関係を知ってもらう。
- ・交流を深めることで、家族の、組合に対する理解を深める。



2008. 7 長崎
ガラス工芸体験・
交流会



(例5) 組合役員への誘い

★青年部時代の失敗

役員のなり手がいない

組織力量の低下

役員選出のシステム作り
(職場ブロックから立候補者を
強制的に出す)

役員同士のつながりが薄
い、無機質な組織運営

役 員

- ・組合運動への理解不足
- ・連携がとれない
- ・積極的な運動へのやる気の欠如

希薄なつながり

職場(組合員)

- ・組合の取り組みがわからない
- ・役員が誰か知らない
- ・参加意欲の低下
- ・役員まかせ

職場での声かけ



人間どうしの付き合い



日常的な活動への誘い



役員への誘い
「あなたの力が必要です」
「一緒にやろう」

人間関係のかたち

愛情

友情

対等な信頼関係

上下の信頼関係

力関係

等...

人間関係に 欠かせない要素

- 義理を重んじる
- 信頼しあう
- 共感しあう
- 労(いたわ)る
- 労(ねぎら)う

等...

職場・組合の人間関係を希薄にする要因・現象

- 職場（自治体規模）の拡大（市町村合併など）
- 遠隔地からの通勤者の増加
- 仕事の複雑化→仕事の個人化
- 生活価値観の多様化
- 趣味・娯楽・教養活動の多様化
- 地域活動への非協力
- 「群れる」ということ、「組織」への嫌悪感

など

役員は、組合員の「よろず相談係」

- 組合員にとって今もっとも解決したいことに役員が積極的に力を貸す
(仕事の悩み、対人関係、家庭の悩み、健康、プライベートでのトラブル、結婚・離婚、多重債務 など...)
- 秘密は守る
- じっと待つのではなく、職場で、役員から声をかけ、相談の糸口を導き出す
- 何気ない会話の中から、新たな情報を得ることができる

- ひとりの人間として、自立した存在を目指すことは重要(もたれあいの組織は成長しない)
- そのうえで、ひとりではできないことを、手をつなぎ合ってクリアしようとする。仕事も組合も地域活動も一緒。
- 社会を構成する「人間関係」に気づき、それを大きく広く育てるには、労働組合は最も重要なツール。
- なぜなら、労働組合は「助け合い」の組織だから。